

間 森 坦（中央区）

「あの」大地震からの一年

震災後、診療所のあった、神戸国際会館が解体されることになったが、中央区医師会の先生のご紹介で、JR三ノ宮駅北側のビルで三月はじめから診療所を再開できたことは幸運だった。再開当初には被災地からこられた患者さんとお互いの無事を喜びあい、被害状況やその後の生活について話をきいてから診療した。

体験談の内容をきいて、悲痛に思うことが多く、教訓を与えられることもあった。以下にエピソードとして二・三記述してみたい。

1. 高血圧症と慢性気管支炎で通院していたAさん。一人暮らしの女性である。地震でどうなったか心配になり電話をしてみた。電話が通じ、向うから「地震でタンスや置物が倒れて部屋が目茶滅茶になったので、大阪の知人宅に避難していた。部屋を片付けに帰ってきたものの、ペットを整えただけで、なかなか手が付けられない。大きな余震があるのではないかと怖くて、眠れないでいる。先生の声のをきくと涙が出てきた。直ぐ、お伺いする」と返事。

しばらくして来院された。再びAさんの震災体験をきいてから診療を終えた。そして「一人ポッチで話し相手がないと不安でした。もやもやしたことをきいてもらって、気分が楽になりました」といってから、震災ルックに身を整えて、帰って行かれた。私も電話してよかったと思った。

2. Bさんは耳の不自由な女性である。自宅が全壊し、頼りにしていた両親が犠牲になられた。Bさんが不眠と胸の痛みがあると、紙に書いて来院されたとき、「地震でご両親が亡くなられてお気の毒だったね」と紙に書くと、無念そうに眼は涙でいっぱいになっていた。慰める言葉がなく、黙ってうなずいているだけだった。抗不安薬の服用法を説明書きしてから、「薬をのんで良く眠ると気分が楽になります。元気を出そうね」と書いた紙を渡した。後日、子供が感冒にかかり、一緒に来院したとき、肩をたたくと、笑みをうかべて会釈するのをみて、私はほっと安堵する思いだった。

今、寒い仮設住宅で身体障害の夫と子供と生活しているが、一日も早く自宅が再建され、幸せを感じる生活に戻ってほしいと願う。

3. 阪急神戸線が全通した六月に宝塚よりKさんが来院された。「診療所が壊れ、先生がショックを受けていられると電話で奥様からきいて心配していたのですが、診療所の再開、おめでとうございます。これからも診ていただくのに駅前の便利な場所なので嬉しいです」といって、祝物を下さった。気管支炎と診断され療養について説明した。Kさんが「宝塚も震災があり、私の家も少し壊れましたが、修理はぼつぼつすることにしました。歌劇に行き指導したり稽古したりしていましたが、咳が続くのでお邪魔しました。先生の薬で早く治して、また仕事します。先生も頑張ってください」といって帰られた。遠方より励ましにきて下さったように感じて、医者冥利と有り難く思った。

Kさんは春日野八千代さんである。そして今年の宝塚劇場の正月公演に招待下さり、一月七日に家内と観劇させてもらった。植田紳爾作・演出の日本物レビュー「花は花なり」で、春日野さんは全

十六場の三場で主演された。半世紀以上も宝塚で活躍を続けてこられ、今も若い宝ジェンヌの手本として、みごとな日本舞踊を演じられるのを拝見して深い感銘を受け、明日から仕事を続ける活力が湧いてくる思いがした。

一月十七日、被災地では一周年の追悼の催しが行われている。「あの」大地震からの一年があっという間であった。震災で廃墟になった市街も、ビルの解体、瓦礫の撤去がすすみ、再建の始まった所もあり、中心街では活気を取り戻した感じがする。しかし、復旧には長い年がかかると思われる。焦眉の急は仮設住いの、身障者や高齢者が安心して生活できる住宅の再建であると思う。政府や自治体は最重要課題として実行していただきたいと思う。

(c)1996社団法人神戸市医師会（デジタル化：神戸大学附属図書館）

皆 木 吉 泰 (中央区)

阪神大震災お見舞い申し上げます

この度の阪神大震災により多くの人命・家屋などに多大の被害が発生したことは誠に痛恨の極みであります。8名の神戸市医師会員の死亡をはじめ、病院・診療所も壊滅的打撃を被り残念でなりません。

地震直後は全く連絡がとれず、その後次第に被害の重大さが判明してきた1月19日に「神戸市医師会災害対策本部」を設置して、本会役員全員を委員にお願いしました。各区においては会員の被害の把握に努め、会員相互に助け合って診療再開に努力され、被害の大きかった区では自己の被害をかえりみず、又、自らのライフライン不通にもかかわらず不眠不休で救急患者の治療に当たられたことなど、大活躍されたと聞いております。この緊急事態を心配して全国各地、外国からも医療チームが応援に駆けつけ、現在も続々と応援の申し込みがつづいており頭が下がります。

時間が経つにつれて、当初の危機的状态から脱したものの、中・長期的展望に立った医療対策がすすめられて参ります。即ち、全・半壊した医療機関の再建・再開などの見通し、財政的援助を含めての具体策が必要となります。一方、避難所に於ける被災者に対する医療は、各地からの応援の方々の引き上げ後、如何にカバー出来るかも大きな問題であります。

お亡くなりになった会員には心からお悔やみ申し上げますとともに、被害を受けられた会員には心からお見舞い申し上げます。

医師会としましては全力をあげてこの問題解決に取り組む所存ですので、一日も早くこの被害から立ち直り、以前にもましてのご活躍されんことを心から期待いたします。

(神戸市医師会報平成7年2月号より)

臨時代議員会における挨拶(要旨)

(平成7年3月18日)

本日はお忙しいなかを定刻にお集まりいただき、ありがとうございました。顧問・参与の先生方もご出席賜り、厚くお礼申し上げます。

1月17日より2ヶ月と1日、50年前の戦災が3月17日の夜半でした。皆様方と早くお目にかかって協議する機会を作りたいと思っていたのですが、遅くなって申し訳ありません。

本日お集まりの方の中にも災害をうけられた方が沢山いらっしゃると思います。

この2ヶ月間、何をしていたのかと後で悔やまれることばかりです。亡くなられた方、災害をうけられた方に早くお見舞いしたいと思っていたのですが、2ヶ月が経ってしまいました。

7人の亡くなられた方の他に、その後、心労のために11人の先生が亡くなっています。年間30人程度の物故者というのが例年のことですが、2ヶ月の間に半数近くなり痛恨のきわみです。皆様

も何かとお忙しい時とは存じますが、お体を大切にしていきたいと思います。

合同慰霊祭も早くと思っていたのですが、県医師会の瀬尾会長とも相談し、合同慰霊祭を来る4月16日に行うことになりました。日本医師会会長、知事、市長も出席するそうで、皆様方も是非ご参列下さい。

会員の方からいろいろお電話があり、早く集まって話を聞けとか、見舞いも早くしろというお話がありました。ごもっともなことです。ご承知のようなライフラインの状況で、皆様と十分に連絡がとれず、会員の動向について毎日調査しておりましたが、一応2月の末に結果がでたという様子でした。災害以来、水道局の応援が全国より集まり、その宿所に当会館のこのホールを使用しており、3月はじめまでこれが続いていましたので、会議を開くのが遅くなり申し訳ありません。

見舞金の件、義援金の使い方など、県医師会と同様にしようということで、県医の会計と相談いたしました。本日、ご検討いただきたいと思います。

地域医療推進事業等積立基金については、平成4年度分まで西神別館に使用しており、5年～6年の2億3千万円と各方面よりいただいた義援金1億2千万円を弔意金、見舞金、被災会員の復興のための資金にしたいと考えています。

いろいろご意見もあろうかと存じますが、宜しくご審議の上、ご賛同賜りますようお願い申し上げます。

(神戸市医師会報平成7年4月号より)

定時代議員会における挨拶(要旨)

(平成7年5月13日)

代議員の皆様、定刻にお集まり下さりありがとうございます。顧問・参与の先生方もご出席賜り、恐縮に存じます。

忌まわしい大震災後、来週で4ヶ月になります。3月には震災のための臨時代議員会を開かせていただきました。いろいろ復興の対策を申し上げましたが、その後数字に変更があり、本日、更生予算を出しております。その他、本年度の予算、事業計画、いくつかの契約、15の報告がございますが、お疲れのところと存じますが、最後までご審議下さるようお願いいたします。

未曾有の震災があり、何もかも後手にまわり、たいへんな状況でした。尚10%の先生方がまだ診療を再開なさっていませんし、診療を再開しておられる所も破損がひどく、十分な状態とは言えず、問題が解決しておりません。市医師会としては、これからが本腰をいれて対応しなければなりません。社団法人神戸市医師会は会員が集まり事業を行うもので、利益をあげて配分するという法人ではありません。限度がありますが、最善をつくし、皆様の復興を願っています。

4月16日、県医師会と合同で慰霊祭を行い、亡くなられた先生方の御霊をおまつりいたしました。震災後、沢山の先生方が、やはり震災の影響で命を落とされています。誠に痛恨の極みです。

震災直後、日本医師会、県医師会、近隣の医師会かわれわれのために尽くしてくれました。物心共にご援助下さいました。それに報いるために復興に心をくだき、神戸市医師会ここにあり、と言いたいところですが、行政も頑張ってくれているとはいえ、国の対応は何となく手ぬるく感じます。まともりの悪い政府で、官僚が強くやりにくいことばかり、従来のように政治家を動かして解

決するというこゝととりについ有様です。

50年前の戦災を考へても、復興には2〜3年では無理で、10〜20年を考へておかななくてはと思ひます。国土計画防災会議等もありますが、住民との話し合ひもスムーズにはつかない。

交通の渋滞した当時を考へると、優先して道を作らねばと思つても地権があり、戦災の時のようにつかない。高層建築物も複雑で、一気に解決することは難しい。いろいろご不満もおありでしょうが、しんぼう強くことに当たらねばと思ひます。神戸っ子の意気を示したいものです。幸ひにして当会館は破損も少なく、西神別館も同様で、学校も一昨日には戴帽式があり、順調に進み、頑張つています。これから皆様のお力を借りて、医師会の復旧、復興につとめたいと思つています。

全国の医師会、殊に日本医師会、十二大都市医師会より援助、義援金がよせられています。先の日本医師会総会では、これに対して瀬尾兵庫県医師会長が皆様を代表してお礼を申しています。

村瀬日本医師会長もこれからかたいへんで、いろいろ援助を約束しておられますが、諸々のご援助にわれわれも報いたいと考へています。

(神戸市医師会報平成7年6月号より)

定時代議員会における挨拶(要旨)

(平成7年11月11日)

お忙しいところを定刻にお集まり下さりありがとうございます。例年と異なり3時開会ということで、ご迷惑をかけています。本日は県の記念式典があり、このようになりました。

顧問・参与の先生方もご出席下さり、ありがとうございます。

本日は17の報告と決算を含む3つの議事がありますが、慎重にご審議下さるよう、よろしくお願いいたします。

何と申しまして、本年度は非常にいろいろな事があつた年です。市民にとつても同じです。

あの震災から300日、復興の兆しはあるものの、身辺をみるとまだまだ困難なことがあるようです。行政当局も同じで、神戸市の部・局の統合を考へ、リストラを決意している。

11月8日、市の国保運営協議会が開かれ、来年度の国保の先行きが暗い。マル免の問題、その他、国庫補助の割合をどのようにするのが有利かと検討しているようです。

新聞は立ち直つたところばかりを取り上げ、明るいことを記事にしているが、現場を歩いてみまるとまだまだ暗く、残つていた建物が壊され、更地になっている。

西播のある会長が、50年前の終戦、その7年後に神戸に初めてやってきた時に、今よりもっとひどかつたといいます。戦後立ち直る時にはオウムとかそのようなものはなかつたが、東京オリンピック直前まではみじめなものでした。

皆様もいろいろなことを経験され、これから益々困難なことがあると思ひますが、なんとか他人の力をかりずにやっていく。その姿を見て、他から助けがやってくるのではないかと思ひています。

諸問題について交渉をつづけると悲観的なことばかりで、現場と東京都の温度差を感じます。医師会もいろいろ委員会を作って皆様に努力していただいています、急に解決するようなものはあ

りません。

医師会として緊急の問題は来年の点数改正のことで、中医協では財源問題がむつかしく、介護保険の方も福祉側の抵抗が強く、誰が負担するか結論はまず、先送りになるようです。

政府はご存知のような状況で、三党合意もむつかしく、野党の抵抗も強く、来年に選挙があるという話がチラホラしていますが、きわめて不明朗です。

どうか地元の地域医療を再建するためにがんばって下さい。

(神戸市医師会報平成7年12月号より)

恵 美 裕一郎(中央区)

恐ろしい地鳴りにつづく、この世のものとも思えぬゆれ、そのあとの静寂。ポートアイランドの泥田のような液状化。歩いて渡った大橋の段差と、その間から見える、はるか下の海面。大橋上から東西に見える不気味な数条の黒煙。海岸病院あたりのガスの匂い。燃えさかり、道路上に倒れる生田川附近の民家。

どれも一生忘れることのできない体験でした。わけでも王子スポーツセンターで、義母の遺体を見守ってすごした当夜の寒さは骨まで凍るようでした。肉親を失い、あの寒さにも気付かず、者の身着のまま遺体に添寝されていた方々は、今はどうされているのでしょうか。

ポーアイにもたくさんの仮設住宅が出来、色々な方々が入居されております。あの日のことを思い出しますと、出来るだけのことをしてあげたいと、積極的に往診にも応じております。

昨今、市民の中にも、仮設に入ってらっしゃる方は甘えすぎているとの風評かきかれます。僕は決してそうではないと思います。行政というより国は、何とかこの方々に希望が見出せるような施策、一に安い公的住宅を建ててほしいと願っています。

住専処理の政治家、官僚のやりとりを見ておりますと怒髪天を衝きます。

森 本 祐二郎(兵庫区)

あれから一年 – 身のまわりの変化から –

○はじめに

アフター震災に明けくれた一年ではありました。とにかく一周年を過ぎた今もその傷痕は到る所...道路、家屋そして斜面の上地...そして私達の心の中にもあるようです。

やらねばならぬ-と思いつつも情けない想い、虚ろな気持ちもありました。被災地以外ではもう忘れかけているようですが、当事者のみの知る心Y情、特に被害のひどかった市内中央部、阪神・淡路と-かたくな思いはそこに住む人々と共通の気持ちでもありましよう。言葉にいい表わせない“何か”かまつわりついている-そんな日々から早く離脱しなければいけないのだけれど-。

ご不幸に会われた方々のご冥福をお祈りします。そして助けて下さった方々に心からお礼を申し上げます。

○多くの出会いもありました

馴染みの患者さんは激減しました。会下山裏の傾斜面-終戦後からの木造家屋、長屋が密集していました。しかも借地・借家、未だに斜面もそのままです。交渉難渋-離ればなれで郊外仮設や子供達の家へ-もう相当ご高齢の患者さんが多かっただけに、もうお会い出来ないでしょう。悲報も数通頂きました。

しかし、多くの未知の人々との出会いもありました。ボランティアの人々、自衛隊の人々、そして湊川公園での『兵庫区臨時保健医療相談センター』に訪れた人々、『私はイチバツボランティアなの、身は軽いのヨー』30過ぎとかチャキチャキの東京娘?-善意溢るる患者さんでした。

テレビ、新聞や近くのタウンウォッチングで-上沢、下沢、松本通り、そして親父の須磨の家、新長田の元診療所などでは、震災の凄しさは理解出来ました。しかし、更に知りたいと思い一月下旬、区内及び近隣の避難所を10ヶ所ばかり訪問しました。又、昔の患者さんのお墓参りに、東灘にも出掛けました。当時は避難所は100人単位で人々の表情は虚ろで悲しそうでした。唯、炊き出しもすでに始まっており、それなりに平静そうだったのかせめてもの救いでした。

丁度、菊水小学校を訪れたのはもう暗い夕暮れでした。校長先生から2人のナースを紹介されました。和歌山と滋賀からのボランティア参加とか、10日間位の泊り込みとの事でした。その若い2人の気配りは初々しいムードを醸し出し、又小学生達の人気抜群!「お姉さんを待っていた!貴方は美しい!」などと声をかける(今“おませ”という言葉はあるのでしょうか?)本当に天女のようなこのお2人に驚き、嬉しくもなりました。

又私の住む石井・東西夢野地区では3月中旬から巡回医療相談班が結成され、自発的に避難所めぐりが始まりました。当時は鳥取県立病院群、慈恵医大の医療団が担当されており、その撤退後引き継ぎました。短期間ではありましたが、開業医同志の結束、又地域医療機関としての回復の証し

でもありました。

○診療所も生まれ変わりました

5代目私が引継いだのは昭和42年でした。築後50年の木造建物で、大同生命元町支店であったものが移築されたものでした。そのオーナーの福祉法人からの借家でした。内壁は殆ど脱落、床は傾き、建物の中央に高さ30cm以上の断層が走りました。屋根、外装は自前で修復をくり返していたため比較的被害が少なかったのですが、モルタル壁が浮き全壊でした。家内の親戚筋の大工さん数名、18日から泊り込み応急手当をして貰い、お蔭で屋外で診療したのは数日のみで、本当に助かりました。尤も、外来患者さんは少なく「あの診療所は潰れた」と思われていたようでした。寧ろ道路向いの老人ホーム及び市営住宅集会所に約200人の方々が避難されており、娘と共に喘息発作、狭心症の手当に大奮でした。

全壊判定、家主との交渉、地主たる市当局との請願など、その後3ヶ月のフットワークとストレスは約10kgの体重減少と門歯3本脱落、折角の男前?も老爺と化しました。それでも借金する事が出来、家賃10年先払いの形で交渉成立、大阪からの工務店の敏速な工事-11月からは再開出来、61才の出発となりました。

今まで余り親戚を頼らず、意に介さずやって来たものですが、今回は入浴、水、ガスボンベ、食糧からドライシャンプーまで、そして倒壊した親父の家の土壁撤去まで、本当に助けてもらいました。改めて“血の繋がり”の大切さを悟りました。

○内と外とでは

6月まで市内に出る事はありませんでした。7月から豊中へ借金交渉や工務店へ、8月には高知での同窓会へ、9月には千葉へ、1月には小倉へと、市外に外出する機会がありました。どこへ行っても阪神大震災自体についてはご存知で、慰めの言葉も頂きました。しかし多くの人々の亡くなった状況、ライフライン回復の遅れた事、その後の避難所状況については関心が薄く(当然かも知れませんが)、内と外との格差を感じた事でした。やはり無くなって始めて知る大切さを感じています。

「大阪に通えない?それなら福知山方面廻りで通学するか...下宿をすればいいじゃないですか!被災者だからといって一切優遇はしません」3女の通う大学からの電話回答でした。真面目にやっているらしいのですが、常に低空飛行らしく、欠席サボりは儘ならぬらしく、泣きじゃくり、情にほだされ「下宿禁止」を解きました。大阪の会社勤めの次女も会社の寮へ。交通網が回復した今も「夫婦2人キリ」が続いています。親ばなれ、子離れも近い兆かも知れませんが。前の施設に居るお年寄の家族、当初は週一の面会も、月一回、3月に一回と延びてゆく、そんな光景と重なります。大晦日に急死した老婆の方も「長女が3日に迎えに来るの」と楽しみにされていました。結局はご自宅に帰れず、永代供養とかで今も霊安室に-人が変わる、時代も変わる-益々淡々として来る人間関係の中で、しわが友-ナアー 酒ヨ-♪となり勝ちな自分を戒めてはいます。

○在宅ケア連絡会は続いています

多くの方々のご好意協力で、4月には再開されました。その間に公開講座でお世話になった作家の野田正彰先生、阪大の多田羅浩二先生、スウェーデンのアンベッケン夫妻と子供達もお見舞いに

来て下さいました。神港高校など近くの避難所を訪れたり、又野田先生と共に深夜区役所に内野区長さんを訪ねたりしました。その時グッ!仁王立ちの区長さんの姿は今も憶えています。多田羅先生にも老人ホームも見て頂きました。「連絡会続けんとあきませんでー」助手一人連れられ深夜の湊川トンネルを東へ-その後ろ姿をみている内に涙が溢れて来た事でした。

日赤ナースステーションの活動、警察・消防署から区内での被災状況の検証、神大法医学教室からの住宅関連死、又出席者全員からの体験報告、まずは年内に「震災がらみ」のテーマは終わりました。公開講座は8月に金津精一先生からの「市中病院の活動」、兵庫看護大学のパトリシア・アンダーウッド教授の「PTSD」(10回)、そして12月には「在宅で人生を完成させるために」(11回)京大のカルベッカー助教授や関係者の方々と開催出来ました。前年度に比べ、より熱心に参加して頂いた-そんなムードでした。

○終りに

新年号、ある雑誌に『人生はいつもその次』とありました。年が明けて、もう数十日、今年こそ将来の防災のために-と考えねばならぬのですが、私自身、また茫然自失-ボーとした気持ちが抜けません。「今度来たらもう終わりやー」と咳いたりもします。自宅にも日増しにクラックが入り、数年先には要補修とか-出ていた娘達の運命や如何に?!そうそう無くなった義歯も入れて、頑張った奥さんに海外旅行もさせなきゃー、神戸で生きて30余年、又日本に生まれた倖せも感じます。

「あれから2年-」となる間に親切にして頂いた人々、より不幸な人々に少しでも優しくなっている自分になりたいと念じています。

森 本 雅 代 (兵庫区)

地震のあと...の私

「ドーン」と地鳴り、つきあがる響きとともに目が醒めた。ねぼけた夫が「地震だ、枕を持って外へ出ろ」の呼び声で横揺れする中、食器の破れる音もよそに、家族は外に出た。着の身着のまま異様に静まり返った空の下、震えながらひたすら枕を抱いていたことでした。ふと空を見上げると、満月が不気味にこちらを見下ろしているではありませんか。ニタツと笑っているようで「兎さんの餅つき」など、どうして想像が出来たでしょう。後で考えると枕は落下物防止の役目だったんだと苦笑し、これも。咄嗟の知恵、でしたか。

もう半年が過ぎ精神的に落ち着きを取り戻し、再建に日夜惜しまず努力している昨今です。この震災で失ったもの。多くの人命、財産、そして様々でしたが、私達にとっては親と子の心のつながりをも引き裂かれたように感じています。我家では女の子は独立するまで親元に居るようにと、こんな便利な阪神間に住み、選べる学校だって職場だって山とある。自宅からという条件のもと子育てしてきました。窮屈とはいいいながらも、娘は約束を守っていました。が、交通機関がストップ、三女の後期テストが近づき何日も欠席出来ないで学校側と相談しました。返事は全く冷たいものでした。「授業もテストも受けなければ、当然留年です。神戸に住んでいるからといって特別配慮はいたしません。薬学の授業を甘くみてもらってははいけません。山陰まわりで大阪に出てどこかに泊まったらどうですか」淀川を渡れば地震の揺れは感じて、この激震地の無残さ、交通渋滞は理解してもらえませんでした。とうとう娘は泣き出し、「お兄ちゃんだけ下宿してずるい」と、仕方なく娘達で大阪にマンションを借り、通学通勤も一件落着の運びとなりました。物入りの時に実に物入りで仕送りせねばならないものの、賑やかな三姉妹が急にいなくなり、時々くる余震に怯えながらも、老夫婦の生活の練習をする機会がやってきた感じでした。しばらくは潮が引いたようで寂しく子供を奪われたと腹も立てていましたが、何と夜の電話のベルの静けさや...次第に子供という緩衝地帯がなくなってしまっ、一対一で向き合うと、会話の内容もとざされ勝ち、床につく時間も早くなったようです。

さてJR、阪急、阪神と順に開通しました。誰も帰ってくる気配がありません。数ヶ月門限のない初めての自由さを満喫しているらしく、この別天地からうるさい親の所には帰れないのでしょうか。「朝寝坊出来るし、三人共嫁に行ったんだと諦めてね。いずれこんな日も来るんだから、お父さんお母さん安心してのんびりしていていいのよ。時々里帰りするから」と、「何だこれは」...ところがどっこい私も自由なのです。家事も減ったし、第一電話代半分以下ですわ。うるさい小姑いなくて自分の時間を有効に使っていますわ。と娘と私はお互いにエンジョイです。結局ブツブツ言っているのはお父さんだけ、「オイ誰か連絡してきたか、今週末だれか帰ってくるんや、オイ11時だ、皆マンションに居るか電話して確かめろ」ああうるさい。父親は哀れです。

しかし時代の流れとともに人の心の暖かみもうすれていくと感じるのは私だけでしょうか。公文書は致し方ないにしても、手紙までワープロ時代。たまに肉筆の手紙なんぞ頂くと、思わずくり返

し読んだりもします。そして全て用件は電話で、電車の中でもルルルー、突然街を歩いていると後ろの人がおしゃべりを始めたり順じて子供も親の考えもドライ時代にはなってきた。暖かみもなくなったかな-。子供も割り切るなら私も割り切って中年を謳歌しますか。

さてさて3月、激震の跡や倒れかかった建物から「いかなご」を煮る香りが漂ってきたのです。忘れていたいかなごの到来、災害の街にも自然はめぐってきました。天祐よろしく、回遊の時期に合わせるようにガスの復旧、よるこびの声と共に家伝の釘煮を作りました。心配かけた各地の方々に少しずつ宅急便をしました。あの大災害を瀬戸内の海中いかなごはどう回遊していたか、「半ばあきらめていた釘煮、喜んでいただきます」と肉筆のお返事をいただいたのです。やはり人の心の暖かみは生きているのです。そして神戸も生きているのです。

(神戸市医師会報平成7年9月号より)

安 田 俊 吉 (西区)

行く河の流れは絶えず

この一年、大震災についての投稿依頼が繰り返し繰り返しあって、その度に同工異曲な内容のものを出し続けて来たような気がする。

学会、医師会、各種協会、研究会等などの団体から、それぞれ大震災に於ける、災害医療の実態や反省、学んだこと、今後の対策などについて、アンケートが交錯し、集談会、シンポジウム、パネル、講演会が数限り無く持たれて、食傷気味となったが、大震災を縦から横から充分に考える機会とはなった。又、後世に残す記録も出来たものと思う。

しかし、その結果どんな成果があったのかと聞かれると、些か返答に窮するのではないだろうか。未経験、古今未曾有の大災害に遭遇して、うろたえ騒いだけで、何をすればよいのかわからなくなってしまっていた人間の愚かさが見える。

震災の記録を数多く発刊して稼いだ人達や、修理、再建でもうける人達を見ると、混乱と虚脱のなかの人間模様を見る思いである。

大都市直下型活断層地震のすさまじい被害惨状は、それでも時間帯に恵まれて、最小限にすんだという考え方もある。とは言え、平和な時代に突然起こった人間の不幸に些かの救いもない。その復旧、復興には、大都市であるだけに長い年月を要することは誰の目にも明らかである。

神戸が甦るには、時の流れを待つしかない。整形外科的に見れば、単純骨折ではなく、感染を起こした複雑骨折である。その治癒経過が遷延するのは当然であろう。焦ったり、力んだり、あらぬ幻想におどらされたりしてはならない。粘り強い適格な努力の積み重ねをつづけ、時の流れに身を委ねるしかない。

方丈記の書き出しは「行く河の流れは絶えずして、しかも、もとの水にあらず、淀みに浮かぶ泡沫は、かつ消えかつ結びて、久しく止どまりたる例なし、世の中にある人とすみかと、またかくのごとし」とある。味わうべき言葉である。災害で人の心が醜くならないことを祈りたい。

山 川 雅 義 (北区)

阪神大震災から学んだこと

あの地震から“もう1年”が経ち、二度目の冬を迎えている。公衆衛生の面からみた震災後約6ヵ月間の状況については、記録集「震」に述べたが、その後の情報や経験から感じた事を独断と偏見を交えて述べてみたい。

まず、予防接種実施状況をみると表1のようになり、麻しんの接種率でやや低下がみられたものの、ポリオ、三種混合I期初回など、いずれも高い接種率を維持し、日本脳炎、風しんなどは例年通りであった。また、平成7年4月～9月の接種者数累計でみると、三種混合I期初回(3回とも)・追加(改正前II期と呼ばれていた)および麻しんにおいて、いずれも前年同期実績を上回っていることが判っている。これら成績をみる限り、神戸市ではこの一年間、何ら異変は起きなかったのではないかと思えるほどである。その理由としては、接種対象年齢が拡大されたことや、個別接種化が浸透していたことも大きい。それにもまして、被災会員を含め接種医の努力や、接種を受ける側の意識の強さ、そして行政当局による接種環境の整備(ワクチンの確保・支給を含めて)などが挙げられる。結局、あれだけの災害があったにもかかわらず、当市における公衆衛生の水準は低下せず、地域保健医療は確保されていたと自負してもよいのではないだろうか。

梅雨期以降、避難所(現在では待機所等と呼ばれる)における食中毒の発生が強く懸念されたが、現在まで、配付された弁当(最盛期には九州からも調達・輸送していた)からも、ボランティア等により提供された食事からも、患者発生は皆無である。諸外国の関係者から、「本当に食中毒の発生は無かったのか」「信じられない」「発生を隠しているのではないか」と驚異の目で見られたようだ。奇跡的幸運もあったにせよ、衛生状態の良好さを示す指標の一つになりはしないか。一方、一般市民の間では、事業所や児童施設を中心に集団食中毒の発生が再三にわたったことも事実である。

この一年間、オウム関連事件、大和銀行巨額損失事件、銀行・信組の経営破綻、住専問題...と暗いニュースばかり続いたが、先日、阪神大震災一周年にちなんでテレビの特集番組を見ていてアツと驚いた。「なぜ早期に大災害であるとの認識が無かったのか」という記者の質問に対し、ある関係省庁の上級官僚が淡々と答えていた。「われわれのところに、何人の死者が発生したのか。火災が起きているなら焼失家屋は何戸か、焼失面積は何ヘクタールかなど、具体的な数字がなに一つ情報として入って来なかったから...」と。地震発生から3～4時間も経過し、あの激しい火焰や黒煙、ビルや家屋の倒壊、高速道路の横倒しになっている映像を見ていながらである。あとになって政府の危機管理能力や初動救援活動の遅れを云々する議論が交わされているが、答えは自ら出ている。相次ぐ政権交代で地震担当大臣も3人目?これでは、責任ある対応や措置を求めても無理か。

表2～3を見て頂きたい。仮設住宅の建設・入居も進み、現在、約30,000戸に60,000人が生活をしておられる。それでもなお、7ヵ所の待機所に140世帯260人が、その他(旧避難所)33ヵ所には218世帯498人、合計758人が残ったままである。仮設住宅は不便だ、狭い、耐熱・耐寒能力に欠けるなど苦情が多く、高齢者の孤独死も報じられるが、狭いながらも各戸に浴室が付き、震災前に住んでい

た処(家)よりも広いと言って喜んでいる母子がいることもテレビで知った。

震災で危機的財政に陥り次々とrostro策を打ち出している神戸市ではあるが、新しい動きもある。一つは、平成7年12月より「新牛児訪問指導事業」の拡充を目標に動き出したし、もう一つは、平成7年12月28日に、「高齢者に関する神戸市医師会と神戸市との連絡会」(第1回)が持たれたことであろう。ここでは、保健・医療・福祉に関するネットワーク機能の充実を掲げ、医師会に参画を求めて来たものである。結構なことであり、医師会としても協力を惜しまないつもりである。

平成8年1月15日の夜、うつ病の男性が自殺したので検視に立ち会って欲しいと警察から依頼されて赴いた。震災で経営する会社を失い、再建の意欲が出ぬまま「死にたい」ともらしていた未での出来事であった。また一つ、震災のツメ痕を見せつけられた思いがした。

同じ災害地に住みながら、被害の程度は様々で、他の人々の事情や状況までは判らず、震災への思いも被害への理解度も微妙に食い違っているように思えてならない。

復興状況や今後の問題解決を考えたら、平成7年1月17日から“まだ1年”しか経っていないと言わなければならない。

平成8年1月17日午前5時現在、神戸市における死亡者4,512人、不明1人、負傷者14,679人(神戸市災害対策本部調べ)。なんと大きな震災であったことか。

文中使用した表1は、第95回神戸市予防接種運営協議会における資料に基づき作成した。表2、表2-1、表2-2、表3については、神戸市災害対策本部民生部より資料の提供を受けた。この場を借りて謝意を申し上げます。

表1 平成5年度、6年度予防接種実施状況

		平成5年度			平成6年度		
		接種対象者(人)	接種者(人)	接種率(%)	接種対象者(人)	接種者(人)	接種率(%)
ポリオ①		13,629	13,191	95 *1)	14,167	13,361	98 *1)
麻疹			12,396	90 *1)		10,253	75 *1)
三種混合	I ①		13,048	94 *2)		11,375	83 *2)
	②		12,733	98 *2)		11,203	98 *2)
	③		11,983	94 *2)		11,123	99 *2)
	II *3)		11,756	93 *2)		10,375	87 *2)
日本脳炎①		66,084	41,565	63	65,513	42,600	65
風しん *4)		10,159	4,999	49	9,958	5,217	52

- *1) 前年の出生者に対する接種率
- *2)1回目は前々年の出生者に対する接種率、2回目以降は前回の接種者に対する接種率したがってII期は前年I期3回目に対するもの
- *3)現在はI期追加と呼ばれている
- *4)前年度末接種の中学校3年生女子接種分を含む

表2 待機所における人数など

(平成8年1月17日午前5時現在)

	待 機 所			その他（旧避難所）＊			人／世帯
	カ所	人	世帯	カ所	人	世帯	
東灘区	0	0	0	1	8	1	8/1
灘 区	1	12	7	13	166	66	178/73
中央区	1	29	17	2	16	10	45/27
兵庫区	2	43	34	8	111	61	154/95
長田区	2	160	78	7	174	66	334/144
須磨区	1	16	4	2	23	9	39/13
計	7	260	140	33	498	213	

合計 758人 353世帯

＊その他（旧避難所）の内訳

学校	9カ所	49人	25世帯
公的施設	4	40	18
公園等	20	409	170
	33カ所	498人	213世帯

表2-1 待機所各施設別人数

灘 区	王子スポーツセンター	12 人
中央区	旧下山手小学校	29
兵庫区	兵庫勤労市民センター	19
	永沢公園	24
長田区	旧長田区庁舎	110
	新長田勤労市民センター	50
須磨区	須磨区民センター	16
合 計	7カ所	260 人

表2-2 その他(旧避難所)施設別人数

区 名	施 設 名	人 数	施 設 名	人 数	施 設 名	人 数
東灘区	本庄中央公園テント村	8			1カ所	8人
灘 区	灘 小学校	7	西郷小学校	3	灘北1・2丁目	19
	岩屋公園	45	岩屋北公園	5	烏帽子公園	6
	JR灘操作場南	5	新在家公園	7	西灘公園	10
	浜田南公園	6	碑田公園	33	求女塚西公園	11
	大和公園	9			13カ所	166人
中央区	生田川公園南	13	宮本公園	3	2カ所	16人
兵庫区	旧会下山小学校	7	神港高等学校	3	兵庫中学校	9
	水木小学校	3	東山小学校	2	本町公園	71
	会下山公園(山上公園)	2	湊町公園	14	8カ所	111人
長田区	丸山小学校	2	御蔵小学校	14	兵庫高校	6
	公園地域福祉センター	3	番町集会所等	11	新湊川公園	20
	南駒栄公園	118			7カ所	174人
須磨区	旧須磨署跡	4	須磨区役所前公園	19	2カ所	23人
合 計					33カ所	498人

表3 仮設住宅 区別建設戸数

	一 般 仮 設						高齢身障仮設		合 計	
	2 K		1 K		地域型		地域型			
	箇所	戸 数	箇所	戸 数	箇所	戸 数	箇所	戸 数	箇所	戸 数
東灘	15	3,221	9	157	2	56	6	449	32	3,883
灘	4	311	6	228	4	96	3	351	16	986
中央	8	1,566	8	1,900	2	48	6	282	24	3,796
兵庫	5	271	9	199	1	88	2	96	17	654
北	37	4,135	11	1,703	—	—	—	—	48	5,838
長田	3	349	7	107	3	120	1	71	14	647
須磨	26	1,197	15	581	1	96	3	251	45	2,125
垂水	15	1,423	8	885	—	—	—	—	23	2,308
西	53	7,782	16	1,159	—	—	—	—	69	8,941
合計	166	20,255	89	6,919	13	504	21	1,500	288	29,178

* ポートアイランド第7はIK2K混在するため、箇所数としてはIKのみにカウントしている。

**星和合南はIK2K混在するため、箇所数としては2Kのみにカウントしている。

入居率は約95%

このほか市外に建設された3,168戸のうち202戸は兵庫県から神戸市への振替分がある。

山 本 喜三郎(長田区)

続 被災と心の動揺:復興へのあがき

大震災から1年、我々被災者の傷跡は今なお癒えることなく続いており、それに復興へのあがきも加わり、明日への生活に。呻吟しているのが大方の神戸市民の姿であろう。しかしその呻吟の様相も、第三者には、台風一過の思い出にすぎないようで、我々の実感とはあまりにもかけ離れているようである。実際、最近よく耳にすることは、阪神大震災は中央ではすでに過去のものになりつつあるということへの危惧感である。なぜこんなにも早く震災復興の掛け声は風化していくのだろうか？

はかばかしくない自宅や診療所の復興にいらいらしながら、あれやこれやと考えを廻らしていると、ときには意外な考えも浮かぶものである。それとマスコミなどの情報を寄り合わせると、何となく世間の事情が分かったような気になる。不思議なことに、そこでは、自分のあがきと神戸市の悩みとがオーバーラップして感じられることもあります。地震を契機に、神戸が良くならなければ自分も浮かばれない、という神戸市民としての目覚めが生まれたのかもしれない。そのような取り留めのない考えを辿りながら復興へのあがきを綴ってみたい。

従来神戸市政は格好がよかった。市民の我々がみてもそうだから、他府県の人々にとっては憧れの市政だろう。震災後はかなりあやしくなってきたが、それでも今なお格好よさが尾を引いているようである。新聞によれば(日経:7-4-17)、従来神戸市KKは、公共デベロッパ的発想でポートアイランド、六甲アイランドの事業を起し、それを支えたのは起債による借金であり、それがうまく回転して神戸市を潤していたが、バブル経済崩壊後は事情が一転、しかも今回の震災で、今後が心配という。戦後50年発展を続け、今いろいろな難問題に直面している日本経済の縮図なのだろうか。それとも神戸の発展に必要ないわば通過儀礼であろうか。政治には全く無関心だった筆者にさえ、何となく最近の神戸の経済状態は分かるような気がする。同様のことは、小田実氏も紙上で述べている(朝日:7-8-11,8-1-17)。

ところで、ある学者は日本の太平洋戦争を振り返り、あれは神経症的だったと、精神分析的に語っている本を読んだことがあるが、正にその通りだと思う。一億人が神経症的になっていくら頑張っても、到底アメリカの正常心理の物質文明には歯が立たなかったことは、今では小学校児童でも分かってもらえる。だが心身症的な行動はなかなか理解してもらえない。一般に気が小さくて、くよくよしている人が、すぐ心身症呼ばわりされ、格好がよくてバリバリ働いている人は立派な人だと考えられがちである。

しかしこれは全く反対で、後者の人こそ心身症であることが多い。代表的心身症として狭心症や胃潰瘍などがあげられていることを考えれば納得できようし、狭心症の心理特性にタイプAパターンがあげられていることを考えれば、なお更納得して頂けるでしょう。つまり心身症の本来の意義は、心の内面に根深い葛藤を抱えながら、外面を必要以上に取り繕い、活発に行動・症状化することで、葛藤を消化している人を指しているのです。

このように考えると、これまでの神戸市政は、病気に例えれば、いわば心身症的な症状行動と似ていることに気がきます。格好よくみえていた神戸市政の構造には、数多の難問や葛藤を宿していたことに気付くからです。そして震災からの復興ということで、震災後の貧困と困窮を中央で陳情に及んでも、陳情相手に、格好よい神戸市政という先入観がつい絡んでしまい、神戸の現状認識を歪曲させたり、“なぜ神戸だけが”というやっかみ心理を助長させたりして、神戸市の困窮ぶりがまともには扱われないであろうことは、想像に難くない。他人ごとではない、。

兵庫県と神戸市は、震災後復興の目玉として(朝日:8-1-14,日経:8-1-15)、「神戸自由貿易地域構想」から「エンタープライズゾーン(企業自由地域)構想」へ、そして「住宅地震災害共済制度」などを提案しているというが、これが甘美な幻想的なものでなく、実体的なものであって欲しいというのが、県民総ての願いであろう。

震災後の新聞を読んでいると、いろいろと教えられることが多い。とくに建築に関する藤森照信氏の意見(朝日:7-5-17)には考えさせられた。震災後、取り壊し、新築が進められる中で、「歴史の厚みをもつ神戸では、更新より補修が後世の人々に神戸のもつ歴史の厚みと体験の深さを感じさせて素晴らしい」と述べ、古墳時代末期の高床式住宅形式で20年毎に新築を繰り返している伊勢神宮と、1,200年以上前から補修を続けている法隆寺とを対比させている。言われてみれば確かにそうである。NHKの「風見鶏」番組以来有名になった、あの神戸の名所「異人館通り」だって、建造物の長年の補修・保存が生み出した歴史的遺産だからである。

政策批判など大袈裟なことを離れて、筆者自身のこの1年を振り返ってみると、たしかにこの1年間はいるいると苦労した。その間とくに苦慮したことの一つは、診療所を取り壊して新築するか、補修工事を行うか、ということであった。あれやこれやと毎日のように考えているとき、ある日突然、愚妻が私の苦慮や咳きなどを察知してか、建築屋さんを連れてきて、「新築よりも、大幅補修してこの難局を乗り切りましょうか」、と言い出した。言われてみれば確かにそうである。実際、そのような考えが最も実用的・現実的であり、藤森氏の有り難い意見を借用すれば、修理に修理を重ねた全身創夷の姿が、我が医院の歴史を語ってくれて、子供たちへの励ましともなるかもしれないとさえ思い至った。更にそのような方向が、心身症の問題解決に頼らず、健全な問題解決にもつながるように思えたからである。だがそのような復興ステップを歩む一方では、所詮それが自分の能力相応の経営手腕ではないかという自問も繰り返している昨今である。

横 山 隆 森 鼻 豊（北区）

北区医師会の仮設住宅健診

震災から一年経ちました。未だ仮設住宅で、又、テントで生活をしておられるような方々がおられます。診療所の再建も中々で、1419件の医療機関のうち、休診49件あり、廃院にまで追い込まれた方々が、診療所45、及び病院2と発表されております(1月22日)。更地はあちこちに見られ、本当に寒い冬です。

政府は、住専には6850億円もの税金を使おうとしておりますが、民間住宅、民間医療機関には、何故1円たりとも投入しようとしないのでしょくか。いらだちを感じながらの毎日です。

北区は被害が少なかつただけに、仮設住宅が多く、その方々に対応するため、医師会として保健所と協力して、次のような事業を実施しました。

平成7年8月26日、27日及び11月19日の3回に分けて、総合基本健診、健康相談を実施しました。詳細な結果は別表の通りです。

まず表1は、北区内の仮設住宅へ入居されている戸数で、平成7年12月6日現在全戸数の85%です。

表2は、総合基本健診、健康相談の実施結果で、3日間で健診を受けた方、及び相談に来られた方は462人(1戸:1人として)で、全体として12%でした。

医療相談について性別(表3の1.)では、女性が男性の2倍であった。

年齢別(表3の2.)では、50～60才代の人が多く相談に来られました。

保健所の実施したものは、表4-1.～6.に提示しました。

健康相談の個々の内容は、表5、6、7の通りで、こころの相談の内容は表8の通りです。

表9に相談内容をまとめてみました。内科系が半数ですが、年齢の関係か、整形外科系の相談も多くあります。運動、食事指導のみの方も17%あり、健康相談の実施はかなり意味のあるものと感じました。

この度の被災者の医療相談への出務に、北区の多くの先生方から快く御協力の申し入れを頂きました。改めて感謝申し上げます。その中から、出務して下さった先生方に厚く御礼申し上げます。

また今回の事業遂行及び資料作成に御協力下さいました北保健所長:三好勝彦先生、保健課長:能村 博氏、保健事業課長:野口智津子氏、保健相談係長:藤山明美氏、保健婦主査:田中由紀子氏に深謝します。

〔表1〕 仮設住宅訪問調査結果

(1995.12.6 現在)

仮設住宅	戸数	入居人数	単独世帯数	高齢者世帯数	高齢者人数	要介護者数	要介護者数
足和田	30	28	12	9	24	5	5
足和田南	238	213	17	5	132	24	35
しあわせの村1	279	234	71	37	117	62	66
しあわせの村2	352	316	78	39	150	47	62
ひよどり台1	82	77	30	23	73	17	21
ひよどり台2	50	48	11	8	41	5	5
ひよどり南1	198	181	39	9	87	16	16
ひよどり南2	178	168	21	5	53	9	11
釣鐘台	112	106	53	42	98	36	46
南野台	50	20	8	6	18	8	8
足和田	60	59	22	8	53	7	8
鳴子	24	24	11	7	22	7	8
北五重	14	14	8	8	12	8	8
日の峰1	59	46	14	3	22	7	7
日の峰2	55	53	20	8	37	11	15
筑紫が丘1	50	45	20	18	45	15	16
筑紫が丘2	28	22	9	7	22	9	9
筑紫が丘3	12	10	2	0	1	0	1
泉台	26	22	10	10	21	12	14
惣山	234	212	91	48	194	69	83
五社	165	143	43	11	70	24	26
有野台1	25	23	12	6	20	8	9
有野台2	91	72	16	2	58	9	11
有野台3	26	20	1	0	11	4	5
実有野台	18	5	2	0	5	0	0
有野大谷	18	1	0	0	1	1	2
有馬	45	41	18	4	29	8	12
瀬田公園	84	81	19	4	34	17	19
柳谷	54	57	22	9	51	12	14
古池	74	73	24	11	73	15	15
藤田台1	240	220	84	46	179	40	53
藤田台2	256	179	38	23	163	38	46
藤田台3	89	57	7	5	52	13	16
藤田台4	26	26	6	2	13	3	4
藤田台5	144	100	23	2	71	12	15
藤田台6	210	163	45	31	140	33	41
藤田台7	192	149	41	22	83	26	27
実の木谷	38	35	5	0	27	4	5
高瀬が丘1	71	40	12	3	37	8	8
高瀬が丘2	26	1	1	0	1	0	0
北神台1	261	228	73	19	158	34	36
北神台2	160	144	42	11	103	23	16
北神台3	75	64	24	17	46	11	11
北神台4	260	224	65	11	146	18	22
北神台5	416	401	141	32	401	63	74
北神台6	370	325	135	37	238	59	65
北神台7	139	137	48	12	88	18	21
北神台8	16	13	8	4	8	0	0
千代が谷	140	124	37	8	75	17	19
合 計	5,839	5,024	1,539	632	3,601	878	1,006

〔表2〕 総合基本健診、総合健康相談の実施結果

実施場所	8/26(土) 午前	8/26(土) 午後	8/27(日) 午前	8/27(日) 午後	8/28(月) 午前	8/28(月) 午後	8/29(火) 午前	8/29(火) 午後	小 計
実施場所	鹿の子台小学校	鹿の子台小学校	有野小学校	藤田台地区センター	小 計	しあわせの村ふれあいセンター	小 計	合 計	
対象者	〔北神台第1～8〕仮設住宅17代が丘入居者1825戸	藤田台第2,3,6実の木谷仮設住宅16戸入居者167戸	藤田台第1,3,6足・柳谷仮設住宅76戸入居者455戸	しあわせの村仮設住宅入居者228戸ひよどり南第1,2	2189戸	632戸1146戸276戸	1146戸	276戸	3765戸
実施人数	108人	68人	78人	37人	344人	84人	34人	118人	902人
健康相談	0	26	18	32	77件	14	4	18件	99件
精神医療相談	0	0	0	0	0件	0	3	3件	3件
合 計	48	46	33	48	170件	27	15	42件	213件
健康指導相談	39			18	67件	18	8	26件	90件
生活相談	3			4	8件	1	8	19件	7件
救急相談	3			2	5件	6	9	6件	11件
相談小計	301件合計	109	271件合計	106	325件	66	33	99件	421件
健康相談	194	43	71	81	389人	80	32	112人	431人
成人病相談	107	48	70	39	243人	84	32	116人	158人
健康指導相談	124			140	270人	122		132人	402人
生活相談	0	0	0	9	9人	84	32	116人	116人
救急相談	32人	32人	32人	31人	127人	30	30	60人	187人
計	0	3	3	8	9人	2	3	5人	14人
計	7	7	7	7	28人	17	17	34人	42人
合 計	39人	41人	42人	81人	344人	89	53	194人	282人

〔表3〕 総合健康相談の内 医療相談希望者

1.(性別)

実施日・実施場所	男	女	計
8月26日（土） 鹿の子台小学校	10 人	16 人	26 人
8月27日（日） 有野小学校 藤原台地域福祉センター	16	35	51 人
11月19日（日） しあわせの村 ふれあいセンター	5	12	17 人
鹿の子台小学校	31 人	63 人	94 人

2.(年齢別)

年齢	男	女	計
20～29歳	1 人	1	2 人
30～39歳	2	3	5
40～49歳	4	4	8
50～59歳	9	17	26
60～69歳	12	27	39
70～79歳	1	9	10
80～	0	2	2
年齢不詳	1	1	2
合 計	30 人	64 人	94 人

〔表4-1〕 総合健康相談の相談内容内訳(保健所の実施したもの)

1.医療相談

健 診 日	実人員	有症状の訴え	中断・未受診	治療に関する事	医療機関疾病に関する事	その他外科系
8月26日午後	26人	27	7	7	5	13
8月27日午前	19人	16	5	3	2	8
8月27日午後	32人	28	5	5	4	10
11月19日午前	14人	14	1	3	7	5
11月19日午後	4人	3	2	1	0	4
合 計	95人	88	20	19	18	40

※相談内容は重複あり

※その他外科系は有症状の訴えの内、腰痛、しびれ、肩こりの訴えた者、リハビリについて相談のあった者、眼科、耳鼻科の相談のあった者の再掲

〔表4-2〕 保健相談

健 診 日	実人員	肥 満	タバコ	752-6	検 尿	血 圧	追加検査	その他
8月26日午前	49人	11	20	5	15	16	15	0
8月26日午後	40人	8	17	6	15	15	9	2
8月27日午前	33人	6	5	4	5	13	19	4
8月27日午後	48人	9	2	1	11	9	40	13
11月19日午前	27人	6	10	6	4	8	8	2
11月19日午後	15人	2	10	7	3	4	1	3
合 計	212人	42	64	29	53	65	92	24

※相談内容及び保健指導は重複

〔表4-3〕 栄養相談

健診日	実人員	高血圧	糖尿病	肥 満	聴 能	貧 血	老 人	難聴	その他
8月26日 午前・午後	39人	7	9	18	0	0	1	2	2
8月27日 午前・午後	28人	2	5	10	0	0	0	10	1
11月19日 午前	18人	5	3	7	2	1	0	0	0
11月19日 午後	8人	2	1	3	0	0	0	0	2
合 計	93人	16	18	38	2	1	1	12	5

〔表4-4〕 衛生相談

健 診 日	実人員	害 虫	犬・猫	その他
8月26日午前・午後	3人	1	2	0
8月27日午前・午後	2人	2	0	0
11月19日 午前	6人	2	2	2
11月19日 午後	0人	0	0	0
合 計	11人	5	4	2

※相談内容は重複あり

〔表4-5〕 こころの相談

健 診 日	実人員	752-6	分裂病	PTSD
8月26日午前・午後	2人	1	1	0
8月27日午前・午後	4人	0	0	4(こころ)
合 計	6人	1	1	4

〔表4-6〕 精神科相談(午前は相談員による、午後は医師による)

相談例	相談内容	指示内容
1.	・耳鳴（夜）、聴力良好 ・僧侶：檀家がなくなり失職 ・保険証もない、住宅もない ・仮設住宅で独居生活である ・医者嫌い、時々希死念慮が出てくる ・生活リズムは規則的で睡眠はとれている ・早朝覚醒の傾向にある	・悪循環に陥らぬように、また、焦らぬように、1つ1つ解決していく
2.	・不眠がち ・物忘れも多く、おつりをもろうのも忘れる ・仮設住宅で独居生活である ・話し方は冗長で、どこまで本当か判断しにくい ・不眠時にハルシオンをのんでいたが、疑問も眠くなるのでやめている ・両側の中耳炎で難聴、左耳のみ鼓室形成術を受けた ・親戚へ行くとお金がなくなるとの訴えは事実か妄想か不明	・仮設住宅では物盗られ妄想にもとづくトラブルはないのか ・老人性痴呆の疑い
3.	・高血圧治療中 ・仮設住宅で独居生活である ・3月血便を認め、胃痛もあったが手術により症状消失 ・プールに週1回泳ぎに行き、人ともよく話をする ・団体生活は慣れていない ・腰が曲がってきたので心配	・取り越し苦労のないように、先のことは成るようになれと開き直るよう指導する ・睡眠導入剤は不眠時頓用として服用する

〔表9〕 健康相談、科別分類

(医師会員の実施したもの、重複あり)

	件数	% (約)
内科系		
1) 呼吸器系	22	22
2) 消化器系	13	13
3) 循環器系	13	13
4) 糖尿病	3	3
整形外科	18	18
脳外科系	4	4
神経科（こころの相談）	6	6
泌尿器科系	3	3
外科系（乳癌など）	3	3
耳鼻科系	2	2
眼科	1	1
その他指導のみ （運動、食事など）	17	17
合 計	105 件	105 %

記録集「震」をお送りいたしましたところ、各地からお便りがまいりました。
一部を掲載させていただきます。(順不同、敬称略)

石 川 高 明

前略

この度は、神戸市医師会で作成された阪神・淡路大震災記録集「震」をお送りいただき、ありがとうございました。

ページをめくる度に、あの時のことが昨日のように思い起こされ、胸の痛む思いで一杯になります。

先生の一層のご活躍、ご健勝を祈念するとともに、一日も早い復興を心より願っております。

敬具
(日本医師会常任理事)

阿 部 博 子

拝啓、暑い夏もようやく過ぎて急に寒いような毎日でございますが、先生には御健勝にお過ごしのこととお慶び申し上げます。

さて本日「震」を拝受致しました。先生の御苦勞を拝察致しつつ、このような記録を残されましたこと本当に素晴らしいことと深く感動致しております。

震災の復旧にはまだまだ時間のかかることと存じますが、何卒御身お大切になさって益々の御活躍をお祈り申し上げます。

乱筆乱文ながら先ずはお礼まで。

(近畿大学東洋医学研究所教授)

田 辺 剛 造

拝復

秋も次第に深まって参りましたが、貴会益々御清祥の事と御慶び申し上げます。

扨、此度の未曾有の大災害でさぞ色々の御経験をなされた事と存じます。その際の記録集「震」を御送り下さいましてありがとうございます。当院も労働福祉事業団命により2班ほど救援のため貴地に参りましたが、かかる大災害は国としての確たる方針がなければ及ぶところではありません。余りに平和ぼけをしていたことに深く反省させられました。

復旧にはまだまだ手数がかることと思いますが、御自愛の上さらなる御活躍されんことを願って

おります。

敬具
(岡山労災病院)

鹿 山 徳 男

かつて思いもよりませんでした この度の大震災に遭遇されまして、誠に何とお慰め申し上げましたならば宜しいものか適切な言葉もございません。只々神戸市の皆様方の 卓抜なる勇気と沈着なる行動力に多大の敬意を表し、不幸にして犠牲になられた方々のご冥福をお祈り致しておる次第に存じます。

記録集「震」を、本日ご恵贈賜りましたこと有り難く拝受申し上げます。この膨大な諸記録には、その後のご多忙の時期に編集されましたご努力に全く頭の下がる思いが致します。心から厚く御礼申し上げます。

一昔前、あの日航機事故の際の政府や自衛隊等の対応の拙さが今になって種々取りざたされておりますが、今回もその辺の状況を各種報道機関よりつぶさに発表され、結局は民間の団体、とりわけ医師会関係者のご活躍が顕著でありましたことを確信をもって言えるのではないのでしょうか。

当地、関東にあっては何時起こっても不思議でない大災害に対処すべく準備に追われておりますが、神戸市医師会の諸先生方の、貴重など体験に学びつつ今後とも怠りなく計画を練ってゆく心算でおります。

末筆ながら、貴会々員の先生方のご健勝をお祈り申し上げ、又一日も早い神戸市の復興を希いまして、今後ともご指導に預かりたく 宜しくお願い申し上げます。

(群馬県太田市医師会会長)

樋 口 潔

謹啓

秋冷の候でございますが、皆木会長先生初め神戸市医師会の諸先生には御健勝に涉らせられまして、心からお慶び申し上げます。

平成7年1月17日のあの恐ろしい瞬間を私どもは決して忘れません。どんなにビックリな事でもございましょう。沢山の人が死んで、都市は壊滅して、高層建築がつぶれてしまって、筆舌に尽くし難い御辛苦を御経験なさいました阪神地区の諸先生に心からお見舞い申し上げます。

しかし、そんな中から、今、未だ9ヶ月しか経ちませんのに、この様に立派な御本を完成なさいまして、私共の医師会にまで御恵贈賜りました事を衷心より厚く御礼申し上げます。一つ一つが涙無しには読む事が出来ませんでした。どんな環境におかれましても、毅然として対処されたお一人お一人の先生に深い敬意を表し、教訓とさせて頂きます。私共の医師会会員は約100名ですが、皆でこの本を読みあって、しっかり勉強したいと思っております。如何に救急医療対策を準備致しましても、20秒間に全てが壊滅するならば、いったいどの様にすれば宜しいのか頭を悩ませておりま

す。救急医療対策のネットワークをきちんと作って、薬品や食物等の備蓄を計って、及ばず乍らの準備を真剣に行いつつある状態でございます。

本当にありがとうございました。医師会の大切なテキストブックとして役立てさせていただきます。時候柄、皆木会長先生初め会員の諸先生の御自愛をお祈り申し上げます。

敬具
(秋田県横手市医師会会長)

萱 幸 哉

拝 啓 秋冷の候ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

阪神・淡路大震災が発生してから9ヶ月になりますが、皆様方には、復興に向けて大変な生活を送られておられることと存じます。心よりお見舞い申し上げます。

私たちも、平成2年11月、雲仙晋賢岳噴火という自然災害に見舞われ、多数の被災者を出し、我々医師会員は、一丸となって被災住民の健康管理に追われたことが、昨日のように思い出されます。あれから5年、今なお、二次災害、土石流災害で埋まった住居が何軒も、そのままの状態が残っております。復興は着々と進んではおりますけれども、まだまだ先のことになりそうです。

さて、この度は、「震」阪神・淡路大震災記録集のご贈呈にあずかりありがとうございました。厚くお礼申し上げます。

会長先生を始め、会員の先生方には、これからも、ますます厳しい日々が続くことと存じますが、尚一層健康にご留意いただき、被災者住民の健康管理はもちろん、市民の健康管理にお励み下さいますことを願っております。又、一日も早い復興を祈念いたしております。

まずは略儀ながら書中をもってお礼方々ごあいさつ申し上げます。

敬 具
(長崎県南高来郡医師会会長)

大久保 忠 訓

拝啓 時下、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、この度は『“震”阪神・淡路大震災記録集』をご送惠戴き、誠にありがとうございます。貴重な資料として広く永く本会活動に活用させていただきます。

本年1月に勃発した阪神大震災は、当地で以前から懸念されていた東海地震の被害想定を覆し、医療救護計画を再検討させられる出来事でありました。本会では、早速災害対策委員会を設置し、浜松市行政当局と阪神大震災で得た貴重な教訓を参考に災害時の医療体制を現在構築中です。

貴会々員並びに職員の皆様には、休む暇もなく復旧に全精力を注がれている姿が眼に浮かび、以前にも増した魅力溢れる神戸の街を創造されることと確信しております。

最後になりますが、震災で尊い犠牲となられた貴会々員に対し衷心よりご冥福をお祈りすると同時に、これからも変わらぬご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。 敬具

小 林 豊 一

阪神・淡路大震災、大変だったろうと思います。

しかし実際に合った人でなければ判らないだろうとも思っております。新潟地震の時でもおそろしかった記憶があります。

今回は、震-阪神・淡路大震災記録集をいただき、改めて大変だったことを思い出しております。大変有難うございました。

(新潟県三島郡医師会会長)

高 橋 伸 彦

暖かい秋で紅葉も少しおこなっている様です。

さてこの度、“震”阪神・淡路大震災記録集をお送り頂き、誠に有難うございました。想像を絶する大惨事の中から、自らの被災にもかかわらず、献身的に働かれ、復興の足がかりを作られた様子が実によく記録されており、胸の熱くなるのを覚えます。この記録は学問的にも大変貴重なものと思われ、これからの私どもの災害時の対策の参考にさせていただきます。

お亡くなりになられた方々のご冥福を心よりお祈り申し上げますとともに、諸先生のご健康を心よりお祈りいたします。

(宮城県玉造郡医師会)

中 川 長 生

前略

此の度は「阪神・淡路大震災記録集」を御送恵下さいまして有り難うございました。

当医師会も地震の巣と考えられる警戒区域に入っておりますので、机上の訓練は常日頃からして居りますが、生の体験集「震」をこれから防災資料作りの参考とさせて頂き戴きます。

草々
(静岡県小笠医師会)

宮 本 昭

コスモスが美しく咲いて居ります。

思いもよらない大震災、その後皆様いかが御過しでしょうか。さぞ大変な事と心から案じて居ります。

扨而本日は、大震災記録集を送って頂き、誠にありがとうございました。当地区でも災害対策委員会を作り種々検討中でしたので、大変有意義なものとなりました。

当地区は昭和二十八年、大水害で沢山の人が死んで居りますし、江戸時代当地区が震源地となった記録もあり、すべての災害に対しての地区医師会の対応は大切なものと考えて居ります。又、枚方市・奈良・生駒・綴喜・相楽郡医師会で、学研都市協議会を作り、本年十二月、当地区が中心になり会合をもつ予定ですが、議題は災害対応をとりあげております。

今後又、色々な事で御教示頂く事が多いかと思いますが、どうかよろしくお願い致します。

末筆になりましたが、会員の役員様、各位の方々にどうかよろしく御伝え下さい。
ありがとうございました。

(京都府相楽郡医師会会長)

佐 藤 俊 雄

謹啓

すっかり秋の気配が感じられ、田舎ではお祭りのシーズンとなりました。

先生には御健勝にて御活躍のことお慶び申し上げます。

先日は大変立派な本、震-阪神・淡路大震災記録集をお送りいただき有難うございました。

徳島県美馬郡医師会としては大した協力をしておりませんのに、こんなに貴重な記録集をいただき本当に申し訳なく感謝の気持ちで一杯です。

未曾有の阪神淡路大震災を経験されて、こんな立派な本をいち早くまとめられて出版されましたことに心から敬意を表します。

会員の手記、資料の収集など、素晴らしい編集であり大変読みやすく、今後大切に扱いたいと思っています。そしてじっくりと読ませていただきたいと思います。

あのような大震災はいつ、どこで発生するか、私達には全く予測不可能のことであり、ふだんから勉強しておくことが大切であると思いました。

最近も神戸市近辺は小さい余震が報道されていますが、一日も早い完全復旧をとお祈りしています。

神戸市医師会会員皆様方の御健勝、御活躍を心から祈念しております。

敬具

(徳島県美馬郡医師会会長)

竹 内 一 正

この度は阪神・淡路大震災記録集をお送り下さいまして厚くお礼申し上げます。

苦難の中を後世に残る貴重な資料、生の声を編集され、関係者のご努力に心から賛意を表します。それにつけても9名の尊い犠牲者には、お悔やみの言葉も知りません。先生の弔辞の通りだと思っています。こうした重大事にこそ会員の一致団結がなにより大切で、これこそが復興の原動力と存

じます。先生にはますますご自愛下さいまして、頑張って頂きたう存じます。

先ずは取り敢えずお礼まで。

(岐阜県羽島市医師会会長)

福 田 孝

謹啓 初秋の候、復旧に向けご奮闘のことと拝察申し上げます。

平素は格別なるご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、この度は「震阪神・淡路大震災記録集」をご恵贈賜り誠に有り難うございました。三百頁以上にわたる手記、資料を集められ記録集に纏められた事は、生きた記録資料として後世に残す事が出来大変意義深いものであると存じます。復旧にお忙しい中このような大変貴重な記録集を作られた事に対し心より敬意を表します。

早速拝読させて頂きましたが、悪夢のような震災から九ヶ月が過ぎ、記憶がだんだん薄れてともすれば他人事のように思いがちな現在、気を引き締め防災に対し考え直す良い機会になりました。また、神戸市医師会の諸先生方の医療に対する責任感に感服致しました。生命の尊さを改めて痛感した次第でございます。

時節柄お身体にはくれぐれもご自愛下さい。 末筆ながら、一日も早い神戸の復旧を衷心よりご祈念致しますと同時に、諸先生方のご活躍とご健康をお祈り致しまして、まずは略儀ながら書中にて御礼申し上げます。

敬具

(フクダ電子株式会社代表取締役会長)

田 淵 博 司

前略 この度は「震-阪神・淡路大震災記録集」をご送付頂き、有難うございました。

震災にわかれて未だ9ヶ月余り、私共でしたらまだ精神的にも立直れているかどうかという時期に、この様な立派な本を出版され、皆様の頑張っておられる姿に、唯々頭が下がる思いが致します。

この本を読ませて頂いておりますと自然に涙が溢れ、字が霞んで前になかなか進みませんでした。本当に大変な事が起こったのだと改めて認識いたしました。私共のお手伝いの時期はほんの一時期で、これから元のようになるまでと言えは長い時間が係るかと思いますが、赤磐郡医師会員一同、心より一日も早い復興をお祈り申し上げます。

時節柄、皆様くれぐれもご自愛下さいませ。

早々

(岡山県赤磐郡医師会会長)

富澤 康 二

謹啓

朝夕はそぞろ肌寒さを感じ、秋もいよいよ深まって参りました。

この度の阪神・淡路大震災、未曾有の大災害となり、各位が懸命にご努力をなされておられますのに、現在も大地震直撃の悲惨な状況が放置されたままの生々しい報道を視聴するごとに心を傷めております。

先生はじめ関係各位には、大変ご苦勞をなさっておられる由、何ともお慰めの言葉もございません。また何のお力添えもできませず心苦しく思っております。

さて、先日は「阪神・淡路大震災記録集“震”」をご恵送賜りありがとうございました。日々のきびしい状況下でなまかなことでは手掛けられないものと痛感いたし、このご労作発刊に敬意を新たにいたしました次第でございます。会長室の書架に常置し貴重な資料として活用させていただきます。

各位のレポートから今更ながら想像を絶する災害の大きさ、生活、業務推進等に対する打撃の深刻さ、わけても医師会員7名の方が犠牲になられたことは誠に痛ましい限りです。また先生方には、今なお医療現場の大混乱の続く中、献身的な活動をなさっておられる由、ただただ頭の下がる思いです。

ここにお亡くなりになった先生方のご冥福を心からお祈りいたしますとともに貴会の機能復旧の一日も早からんことをお祈りいたしお礼に代えさせていただきます。

敬 具

(三重県津地区医師会会長)

北 原 実 衛

仲秋の候、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、先日「震」-阪神・淡路大震災記録集-なる貴重な資料をご恵与頂き誠にありがとうございました。先生には多事多難の折、この様な綿密な資料の編集等に当られたご努力に対し、心から敬意を表する次第であります。

私共、伊豆沖を控えた湘南地方では、とかく予想される東海地震への脅威を日々感じており、このたびの貴所の蒙った災害に対し、人ごとでないご苦勞をお察し申し上げているところであります。どうか一日も早く復興されます様お祈りいたしております。

なお、これら貴重な資料は会員等にも広く供覧致し、十分活用させていただく所存でありますので、編集に当られた先生方によしなにお伝え下さい。

先生にはどうかこれからも健康に留意され、復興に向けご健闘くださる様お願い申し上げ御礼も言葉とさせていただきます。

ありがとうございました。

敬具

(神奈川県平塚市医師会会長)

石 田 六 也

秋冷の候、神戸市医師会の諸先生には益々御健勝のこととお慶び申し上げます。

さてこの度御恵贈くださいました「震」、異様な緊張感で拝見させていただきました。

平成7年1月17日、AM5:46、未曾有の、表現のしようもない事件か、皆様方の前に現実のものとして起ってきた。そしてそれに対処された。この記録集には先生方の超人的活躍が記録されており、改めて諸先生に敬意と心からのお見舞を申し上げる次第であります。

復興しつつあるとは云え、尚残された未解決な部分がどれ程あるのか、部外者の私には全く予想もつきませんが、建設に向っておられる先生方に頑張ってください、と申し上げる以外に何の力も、方法もございません。

神戸市医師会の先生方のこれからの益々の御活躍と御健康をお祈り申し上げます。

(秋田県平鹿郡医師会会長)

野 正 睦

拝復、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

この度貴会編集にかかわる刊行図書『震 阪神・淡路大震災記録集』を当会にご恵贈くださり、誠に有難く拝受いたしました。本書の内容は当会にとりまして、誠に貴重な資料となり救命救急は固より、あらゆる防災対策等多岐に亘る分野における、物心両面の問題点処理の資とさせていただき関係役員のほか多数の会員及び医療関係者等の必読の書として保存させて頂きたく考えております。

罹災後の多忙な時期に、短期間にこれだけの貴重な資料の編さんに当たられた、関係者の皆様のご苦労は多大なものであり賞賛に値するものであると感謝申し上げます。

末尾になりましたが、会長をはじめ会員の皆様のご健勝をお祈りし未来を見据えた新生神戸の復興を祈念申し上げます。

まずは、書中を持ってお礼申し上げます。

(北九州市小倉医師会会長)

高 梨 重 武

拝啓 秋冷の候 皆木会長におかれては、ご健勝にて神戸市医師会並びに神戸市の復興にご活躍のことと拝察いたします。

この度は「震」をお送り頂きまして、誠に有り難うございました。厚く御礼申し上げます。

横浜は関東大震災の体験から、毎年9月1日に医師会も参加し防災訓練を実施してきましたが、最近はマンネリ化していました。今回の阪神・淡路大震災は行政と市民に痛烈な衝撃を与え、目下、防災・救護対策の再整備に鋭意努力中であります。

記録集は医師会員の救護活動の実際について、大変、多くのことを学ばせて頂きました。今後共

宜しくご指導のほどお願いいたします。

末筆になりましたが、亡くなられた先生方のご冥福を心からお祈りいたしますと共に、被災された医療施設の一日も早いご回復を願ってやみません。

向寒の節、お身体にくれぐれもご注意をお願い申し上げます。

敬具

(横浜市旭区医師会会長)

玉 置 千 秋

秋冷の候 ますます御清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、この度『阪神・淡路大震災の記録集1995』をお送りいただき、ありがとうございました。

本年1月の大震災から9か月を経過しましたが、今なお1,900人の方が避難生活をされているとの新聞報道等を見るにつけ、改めて災害の大きさが思い起こされます。

神戸市医師会におかれましても会員の先生が多数被災され、地域住民への医療活動にも大変な御苦労をされるなかで、復興に向けての御努力が本誌により十分拝察されます。

当地におきましても、いつ発生するかわからない大地震のために、今回の大震災を教訓として、行政機関、近隣医師会等と共に対策をたて、今後に備えているところではありますが、本誌を貴重な資料とさせていただき、より良い対応ができるように、さらに努力をしてまいりたいと考えております。

被災地並びに貴医師会の早急な復旧と、今後の一層の御発展を祈念しまして、お礼とさせていただきます。

(徳島市医師会会長)

森 本 基 男

この度は「震」をご恵贈たまわり厚く御礼申し上げます。困難の中から、かかる記録誌を作られたことに対し、心から敬意を表する次第です。

中を開きますと復興にも全力を注いでおられる神戸市医師会及び会員諸先生の力強いお姿が彷彿とするようで、被災市民にとってまことに力強い限りです。

皆様くれぐれも健康にご留意されて、ご活躍あらんことをお祈りいたします。右簡単ながら御礼まで。

(名古屋市医師会熱田区会長)

降 旗 啓 恵

謹啓 秋冷の候 益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

あの悪夢のような阪神・淡路大震災から既に9ヵ月余、貴会会員医療機関の復旧状況は如何で

しょうか。改めて謹んでお見舞申し上げます。

さて、この度は、貴会発行の「阪神・淡路大震災記録集」をご贈呈いただき誠にありがとうございました。被災者の健康維持増進のために奮闘された貴会のご尽力に対し、深甚なる敬意を表する次第でございます。

戴きました冊子は未長く保存し、有効に利用させていただきます。

略儀ではございますが、書中をもって御礼のご挨拶とさせていただきます。

末筆となりましたが、貴会の益々のご発展を祈念いたします。

敬具
(長野県埴科医師会会長)

松 田 一 夫

謹啓

木枯吹きすさぶ荒れた立冬の日となりました。

被災地の皆様には辛い季節となりました。

本日、貴重な記録集“震”を拝受致しました。有難く御礼申し上げますと共に、謹んで拝読させて頂きます。

私、日医の監事を致して居りますので、毎月第三火曜日に監査並びに全理事会に出席致して居ります。

一月十七日、朝八時の飛行機で上京、十時に羽田に到着、空港で地震のアナウンスはありましたが、余り気にもとめていませんでした。モノレールにて浜松町に到着した時、号外で可成りの被害が出たことを知りました。約三十分後に日医につきましたが、駒込駅での号外は更に被害が大きく報ぜられ、日医会館でのテレビで大変な事が起ったと認識した次第です。午後の理事会で村瀬会長から瀬尾理事と電話連絡がつき被害は甚大であるとの報告があり、濱西議長は消息不明との事で、皆案じて居りました。全理事、速やかに救助応援体勢をとって欲しいとの事で理事会も短時間で終了しました事と覚えています。

帰路、六時頃でしたが、スチュワーデスが、唯今神戸上空、火の手が見えますと教えて呉れ、一万米の上空から真赤な火の手が二ヶ所、可成り大きく、はっきりと見え、被害の大きさを実感させられました。

後で考えると長田区だったのかと思います。

義援金、応援医師の派遣も直ちにその態勢をとりましたが、すべて日医を窓口にしたために、もどかしい思いを致しましたが、その間の事情が御誌を通じて知ることができました。

4月16日の合同慰霊祭に出席致し、既に復興途上の現地を眼のあたりにしましたが、未だ大きな建造物のこわれた様や、青いビニールで覆れた屋根等、被害の大きさが偲ばれ胸の痛む思いでした。

“あれから半年”先生の虚しいお気持は想像以上と思いますが“黙って頑張ろう”でやって下さい。

私達も現在、広域防災計画の見直しをやっています。先生達が沸われた大きな代償を参考としてであります。

今後も大変な時代が長く続くと思います。
“頑張ろう神戸”でやって下さい。

敬具
(日本医師会監事・福岡県医師会会長)

枘岡 勇雄

前略

このたびは「震」をお恵送賜り、厚く御礼申し上げますと同時に、この大災害に被害を受けられた神戸市医師会の皆様に心から御見舞い申し上げます。

この度の災害につきましては、私も日本医師会の災害対策委員の一人として去る五月にお伺いしましたが、想像を絶するものでございました。又、お亡くなりになった先生方の慰霊祭にも出席させて頂き、感無量でありました。

復旧にはいろいろな困難がおりと推察致しますが、一日も早く成果があらりますよう、お祈りいたしております。

全国レベルで災害対策の見直しが進んでいますが、我々も全力投球のかまえて予防対策等に頑張っています。

先生もお身体に留意されます様祈念致しまして、貴重な文献を頂戴した御礼と致します。

草々
(日本医師会救急災害対策委員会)

池端 清一

謹啓

晩秋のみぎり益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、このたびは貴会編集の阪神・淡路大震災記録集「震」を頂戴いたし、誠にありがとうございました。さっそく拝見させていただき、数々の貴重な記録、証言等に接することができ、大変勉強になりました。心から厚く御礼申し上げます。

私は、阪神・淡路復興対策担当大臣として、今後とも阪神・淡路地域の一日も早い復興に向けて、皆様方と共に渾身の努力を傾けてまいりたいと決意を新たにしておりますので、引き続き御指導と御協力を賜りますよう切にお願い申し上げます。

敬 具
(国土庁長官)

坪井 栄孝

前略

先般は“震災記録集”をご恵与賜りまことにありがとうございます。御礼がおくれ申しわけありません。

まだまだ神戸は大変なようで、さぞかし地元医師会としてご苦勞の多いことと拝察いたしてりおます。何なりと御申しつけ下されお手伝いさせて下さい。

皆様のご自愛を祈念いたします。

(日本医師会副会長)

高 見 裕 一

拝啓 間近に冬を感じる昨今ですが、平素より格別のご厚情を賜り厚く御礼申し上げます。

このたびは、『“震”阪神・淡路大震災記録集をご送付いただきまして、誠にありがとうございます。早速、貴重なる資料として参照させていただきました。あの悪夢のような日々から早一年になろうとしており、貴会をはじめ多くの方々のご尽力あつての復旧と存じます。しかしながら、まだまだ復興にほど遠い現状は、いかにその爪痕が大きかったかを改めて思い知らされます。国政の場において、災害特別委員会理事として、与党復興プロジェクトメンバーとして、私も微力ではありますが、より一層力を注いでいく所存でございます。今後ともご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

略儀ながら書中にてお礼申し上げます。 敬具

(衆議院議員)

西 信 博

このたびは神戸市医師会発行の「震」ご恵贈いただきありがとうございます。大変な災害のなかにあつての、先生方の活動がよくわかりました。

今後の復旧もなかなか大変なこととは存じますが、ご健闘をお祈り致します。

北海道南西沖地震の復興は、かなり進んでいますが、過疎地ゆえの問題も山積しています。

お忙しいなかで、このような立派な報告書を出されたことに、あらためて敬意を表します。

向寒の折、先生方、従業員の皆様、神戸市民の皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

簡単ながらお礼申し上げます。

(日本医師会広報委員会)

震災に伴う各区状況

平成7年1月24日

	病 院		診 療 所		合 計
	診療可	連絡不能	診療可	連絡不能	
東 灘 区	2	3	50	140	195
灘 区	6	2	39	116	163
中 央 区	21	1	29	202	253
兵 庫 区	7	4	45	121	177
北 区	18	0	103	0	121
長 田 区	6	6	11	146	169
須 磨 区	3	8	38	82	131
垂 水 区	5	1	146	0	152
西 区	15	1	31	45	92
	83	26	492	852	
	109		1,344		
	1,453				

震災に伴う各区状況

平成8年1月17日

	診 療 不 能				全 壊 (焼)			半 壊 (焼)		
	計	診療所 休診	診療所 廃院	病院 廃院	計	診療所	病院	計	診療所	病院
東灘区	19	12	7	0	52	51	1	39	38	1
灘 区	16	8	8	0	56	55	11	46	42	4
中央区	17	11	6	0	53	51	2	75	71	4
兵庫区	16	4	12	0	41	39	2	50	47	3
北 区	2	1	1	0	1	1	0	4	2	2
長田区	17	8	8	1	60	57	3	41	38	3
須磨区	7	4	2	1	23	22	1	18	18	0
垂水区	2	1	1	0	4	4	0	15	14	1
西 区	0	0	0	0	1	1	0	1	0	1
計	96	49	45	2	291	281	10	289	270	19

(c)1996 社団法人神戸市医師会（デジタル化：神戸大学附属図書館）

鷺 尾 隆(中央区)

編集後記にかえて

あれから1年、その間にいく度となく、震災、防災、災害医療に関する講演会、討論会、反省会が、やたらとカタカナの多い名称のもとに開催されました。

でも、どの会に参加しても、終わってからの虚しさ、物足りなさは否定できませんでした。もっとも、いろいろな会合、話し合いで、きれいな切り口の結論がでるはずもなく、こんなものかなと、思いながら、会場をあとにすることが多かったようです。

いずれの会にも、所謂、学識経験者が、さもオレのいうことが正論だとばかりしゃべっているのを聞くと、腹立たしい気がしないでもありません。

そして、かならず、話題になるのは“情報がほしかった”“情報が足りない”ということ。しかし、これが正しい情報だ、これが役に立つ情報だと、誰が選択するのか。情報を受けとる側に正しい判断をする余裕があったのか。いろいろな問題があったのではないかと思うのです。

この一年間、共通して言えるのは、行政への不信、情報機関への不平などなど。災害への対応はかくあるべきだといわれても、救急に際してはこうしなさいと、組織作りに力をいれよと、指摘されても、何よりもまず、思うことは、もうこんな目に合うのはいやだ、かんべんしてくれ、と言いたくなるのです。

“震“発行に際しても、沢山の方にお世話になりました。

会員の皆様、会員外の方、医師会役員、広報部員、事務の日下部さん、木下印刷の岡田さん、ご協力下さった方に心から、厚く御礼申し上げます。

広報担当をおおせつかって2期4年の間、広報誌400号・医師会別館完成記念・長嶋先生の追悼号・十三大都市医師会連絡協議会など特集を出し、これで終わり、あとの1年はのんびり、と思っていた矢先の震災。ために、“震“阪神・淡路大震災特集号を作るハメになりました。

4年間で10年にも20年にも思われて...

広報担当、最後の仕事として、“あれから一年”を発行しますが、本号はまるで人名辞典のようになっています。

原稿をお寄せ下さった方々は、当方にとって神様のような人々なのです。まず、お名前を先に出させていただきました。広報部員、担当の書記が流した汗と涙で、皆様方のご協力・ご支援への御礼とさせていただきます。

ありがとうございました。

時に安んじて順に処すれば、 哀楽入る能わず、

平成8年3月

